

主要科目の目標、特長

(保健医療技術学部 看護学科)

授業科目の名称	目 標	特 長
看護学概論	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護における基本概念である人間、健康、環境について、主要な看護理論の中での定義を理解する。 2. 歴史的にみる看護の発展と看護学としての確立の変遷を理解し、説明できる。 3. 看護の専門性や果たすべき役割・機能について理解し、保健医療福祉の他の専門職と区別して、その特徴を説明できる。 4. 自分が目指す看護専門職者像を具現化できる。 	<p>入学して間もない1年次の前期に設定されている科目であり、看護を学ぶ上での基盤となる知識や理論を学修する。看護を実践するためには重要な概念である健康や人間、環境について、学生は自分自身の考え方を見つめ直しながら、様々な理論や定義と照合させて、新たな考えを構築する。学生個々が自分の考えを表出することを重要視して授業を展開しており、異なる意見を認めながら学生が自分の価値のおき方等に気づいていくプロセスを大切にしている。</p>
アセスメントと看護技術 Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	<p>適切な看護を提供する上で基盤となるフィジカルアセスメント技術と看護援助技術に関する原理・原則を理解し、的確な技術を実践できる。またフィジカル面に関して適切なアセスメントを行うことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「アセスメントと看護技術Ⅰ」では、対象者の状態把握の基礎となる正確なバイタルサイン技術とアセスメント方法、対象者の基本的な日常生活行動を支援するための看護技術を中心に学修する。 2. 「アセスメントと看護技術Ⅱ」では、1) 日常生活行動に関する援助を行うために基本となる看護技術および必要なアセスメント方法を学修する。2) 治療過程の中で、特に苦痛や不快を伴う治療や検査を受ける対象者に対して、看護職者に求められる看護技術および必要なアセスメント方法を学修する。 3. 「アセスメントと看護技術Ⅲ」では、療養生活において個々の対象者の健康問題を解決するために必要とされる看護技術とアセスメント方法を学修し、対象者の健康回復に寄与できる能力を修得する。 	<p>一般的に別々の科目として設定されている基礎看護技術とフィジカルアセスメントの学修内容を1つの科目の中で融合させて授業を組み立てている。そのため、学生は対象者に看護技術を駆使して必要な看護を提供するためには、どのようなことをアセスメントしなければならぬのかを講義・演習を通して、实际的に結びつけて修得できる。看護専門職として適切な看護を自立的に提供できる上で必要となる技術力とアセスメント力を学生が確実に獲得できることに重点を置いており、授業における演習も個々の学生が十分にトレーニングできるようベッドならびにシミュレーションモデルの数、モニタリングシステム等の物理的環境も整備している。How to 的な技術の修得ではなく、原理を理解し、新たな方法を生み出していける基礎力の育成を目指し、学生が意欲的に授業に取り組めることを支援している。</p>
人間の発達と健康Ⅰ・Ⅱ	<p>【人間の発達と健康Ⅰ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達における一般原則とプロセスを説明できる。 2. 人間発達に関連する理論を説明できる。 3. 胎児期から青年期までの各時期の成長・発達と生活の特徴を説明できる。 4. 胎児期から青年期における成長・発達に影響を及ぼす要因について説明できる。 <p>【人間の発達と健康Ⅱ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期・老年期にある人々の成長・発達と生活の特徴について説明できる。 2. 成人期・老年期にある人々の健康問題とその生活への影響について説明できる。 3. 成人期・老年期にある人々の健康レベルに合わせた看護の特徴について説明できる。 	<p>1年次後期から2年次前期にかけて、人間の発達段階に応じた健康の特徴や健康課題に関して学修する。この科目で学修した知識をもとに、2年次から3年次にかけて各発達段階ならびに病期(急性期・慢性期)における健康問題やそれらへの看護の学びを積み重ねていく。人間の健康を連続性の中で位置づけ、支援する看護の基本的な考え方を修得する。</p>

授業科目の名称	目 標	特 長
統合実習	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの実習を振り返り、自己の看護実践の中で達成できていない課題を見出すことができる。 2. 自己の課題の達成を念頭に置きながらも、対象者が抱えている問題や望んでいる生活のあり方等をふまえつつ、対象者にとって必要な看護実践に向けて看護過程を展開できる。 3. 展開した看護実践を振り返り評価することを通して、現段階の自己の看護実践力を評価し、今後高める必要がある課題を見出せる。 	<p>4年次に設定されている看護学臨地実習であり、1年次から3年次にかけての学修の統括となる科目である。この実習に続く「アドバンス実習」と共に個々の学生が自分の課題やテーマを見出し、自身で実習目的・目標を設定して、実習計画を立てて、実習を行う自立的な実習である。卒業後、自らの看護実践を常に振り返り、研鑽していける専門職としての姿勢を培うための実習である。</p>